

令和7年（2025年）6月
発行：熊本県農業研究センター
熊本県農業研究センターの取り組み
を紹介します！

はじめに・・・みなさん、こんにちは！熊本県農業研究センターです！

熊本県農業研究センターは、農業者が安心して農業に取り組み、農業所得の最大化が図れるよう、新品種の育成及び生産性向上技術の開発、併せて、環境にやさしい農業を推進する技術の開発などの研究を中心に、本県の農業技術開発の拠点・発信基地としての役割を果たしています。

生産者、実需者及び消費者の多様なニーズを踏まえながら、生産者の所得向上と消費者への安全・安心で魅力ある農畜製品の提供につながるよう、技術の開発を進めていきます。

令和7年度 主な試験研究課題

近年、環境への配慮、資材・燃料の高騰や気候変動等への対応等、生産者の皆さんはたくさんの課題を抱えている状況です。そのような課題に対応できるよう、当センターでも課題解決につながる技術開発に取り組んでいます。

〇くまもとの魅力を発信できる新品種の開発・選定



〇生産性の向上を目指した 革新的な生産技術の開発



気候変動に対応した安定生産技術及び省力・低コスト生産技術の確立



GPSイアタグを活用した放牧牛監視システムによるスマート放牧技術の確立

〇環境にやさしい農業 を推進する技術の開発



県内有機性資源を活用した地産地消肥料の肥効解明と活用実証



BOD監視システムを活用した畜舎排水処理からの温室効果ガス排出削減技術の開発



←令和7年度（2025年度）新規で取り組む試験研究課題一覧をホームページに掲載しています。

目次

P.2 R6公表 農業の新しい技術

- ①アリウム「丹頂」1月出荷作型の収穫率が安定する栽培技術
- ②モモ「さくひめ」のトンネルハウス栽培は5月下旬～6月上旬の早期出荷と高品質果実生産ができる

P.3 R6公表 農業の新しい技術

- ③褐毛和種去勢肥育牛の新しい体重発育曲線

P.4 ☆新しい仲間たち（農業職編）☆／農業研究センターに視察に来てね！



©2010熊本県くまモン

アリウム「丹頂」1月出荷作型の収穫率が安定する栽培技術

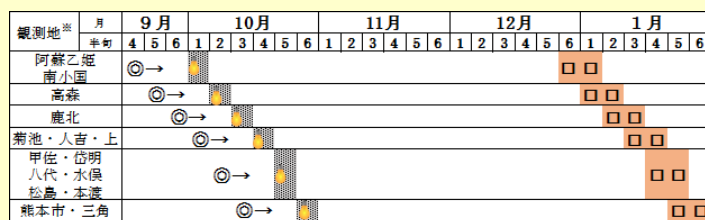
研究のねらい

アリウム「丹頂」切り花の1月出荷を狙った作付けでは、年によって出蕾しない株が多く、収穫率が安定しないことが問題となっていました。そこで、1月に収穫率が安定する栽培技術の構築を目指しました。

研究の成果

1 日平均気温が18℃を下回り始める時期から電照開始し、その2週間前に定植を行う栽培体系において、出蕾が安定し、1月の収穫率は9割以上と安定します。

2 県内地域別の1月に安定的に収穫できる作型表を、気象庁県内地点別平年値（1991年～2020年）の日平均気温に当てはめて作成しました（図）。



※気象庁の気象データ地点

◎ 定植 ○ 電照開始 □ 収穫

電照：定植2週間後に開始、自然電球での暗期中断5時間（22時～3時）

収穫：加温5℃で定植100日後から開始し、期間は10日間とした。

平均気温18℃を下回り始める時期、気象庁統計値から算出（統計期間：1991年～2020年）

留意点

- 試験は、11月7日にハウスビニルを被覆するとともに加温を5℃設定として行いました。
- 本技術の活用の際は、栽培地域の気象条件を確認してください。

R6公表 農業の新しい技術②

モモ「さくひめ」のトンネルハウス栽培は

5月下旬～6月上旬の早期出荷と高品質果実生産ができる

研究のねらい

モモ「さくひめ」は、開花に必要な冬季の低温積算時間が短く、暖冬の年でも安定した開花と果実生産が見込めます。今回はトンネルハウスでのビニル被覆時期を検討し、露地よりもどのくらい早く収穫できるのかを明らかにしました。



研究の成果

1 開花に必要な冬季の低温積算時間（7.2℃以下の時間）が従来の品種よりも短いため、早期にビニル被覆することができ、露地栽培と比べて約2週間早く収穫ができます。

2 トンネルハウス栽培での生育日数は約90日で、開花が早いほど収穫期も早くなり、5月下旬～6月上旬の早期出荷が可能です。

3 ビニル被覆時期を遅くすることで収穫期を遅らせることができるため、摘果や収穫作業を分散できます。

4 無袋栽培でも健全果率が露地の有袋栽培と同等以上なので、袋掛けの必要がありません。

留意点

- 開花期が非常に早いため、低温が心配される地域では晩霜対策は必須です。
- 開花に必要な低温積算時間が品種により異なるため、ビニル被覆を早期に行うには、「さくひめ」のみの単植園にする必要があります。

褐毛和種去勢肥育牛の新しい体重発育曲線

研究のねらい

近年の褐毛和種は、遺伝的な産肉能力の改良等により大型化が進む一方、発育の基準となる体重発育曲線は、30年前に公表されて以降、報告がありませんでした。そこで、近年の褐毛和種肥育牛のデータを用いて、肥育管理技術の指導に活用するため、新たな体重発育曲線を作成しました。

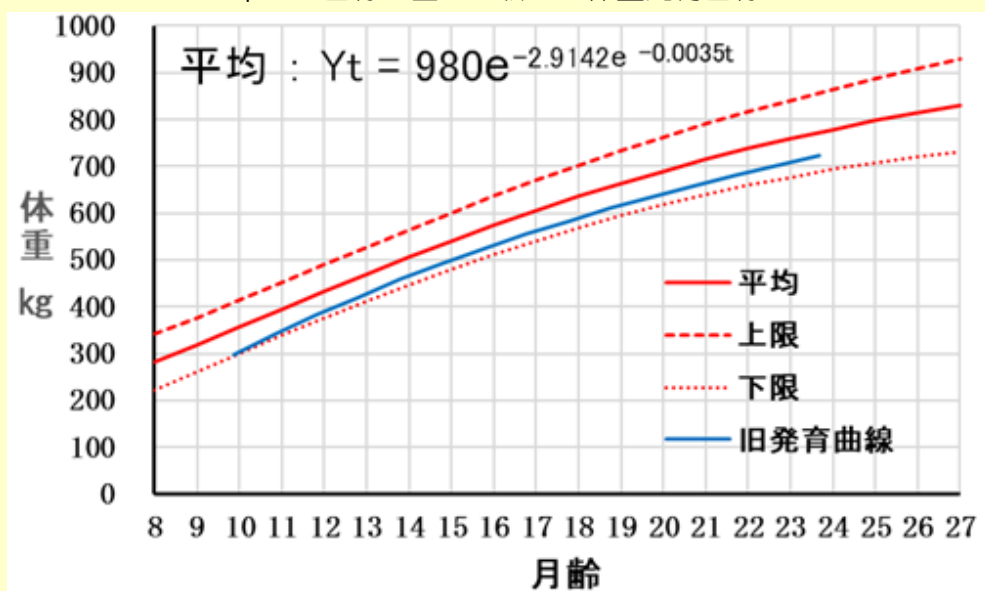


褐毛和種去勢肥育牛（24ヵ月齢）

活用の場

- 1 配合飼料と乾草や稲わら、イネWCSなどの粗飼料を給与する肥育牛に適しています。
- 2 褐毛和種去勢肥育牛の新たな飼養管理技術開発時の評価指標として活用できます。
- 3 胸囲、腹囲測定による肥育牛体重推定法（H26新しい技術）を活用することで、農家現場における肥育管理技術の指導、評価に応用できます。

Gompertz曲線に基づく新しい体重発育曲線



留意点

- (1) 体重計がない場合には、胸囲と腹囲から体重を推定できる技術（平成26年度農業の新しい技術）を活用してください。
- (2) 適用月齢は、8～27ヵ月齢です。

☆新しい仲間たち(農業職編)☆



私たちは、令和7年（2025年）4月から当センターで農業職として勤務しています。作物や動物の健全な生育維持・管理はもちろんのこと、研究テーマに沿った栽培や飼育になるよう現場作業の工程管理や作業員への技術指導等を担っています！

農業研究センターに視察に来てね！



©2010熊本県くまモン

当センターでは、ご希望に応じて県内農業関係者の方の訪問視察を受け付けています。当センターが育成した品種や開発した技術が生産者の皆様に幅広くご活用いただければと思います。

＜申込方法＞

1 時間帯

平日（月～金曜日）の午前9時から午後4時まで
 ※祝祭日、年末年始（12月29日～1月3日）は除きます。
 ※正午から午後1時は除きます。



申込書様式

2 申込手順

まずは視察を希望する研究所に、お電話で日程と視察内容についてご相談ください。その際に、**申込書**を郵送またはFAXでご提出ください。

3 申込先

	電話番号	FAX番号	住所
農産園芸研究所	096-248-6411	096-248-6415	〒861-1113 熊本県合志市栄3801 農業研究センター（視察広報案内）
生産環境研究所			
畜産研究所			
茶業研究所	096-282-6851	096-282-6853	〒861-3208 上益城郡御船町大字滝尾5450
高原農業研究所	0967-22-1212	0967-22-2252	〒869-2612 阿蘇市一の宮町宮地5896-2
草地畜産研究所	0967-32-1231	0967-32-4504	〒869-2304 阿蘇市西湯涌1454
アグリシステム総合研究所 （旧い業研究所）	0965-52-0372	0965-52-7993	〒869-4201 八代市鏡町鏡村363
球磨農業研究所	0966-45-0470	0966-45-2944	〒868-0422 球磨郡あさぎり町上北2248-16
果樹研究所	0964-32-1723	0964-33-1575	〒869-0524 宇城市松橋町豊福2566
天草農業研究所	0969-22-4224	0969-24-1852	〒863-0002 天草市本渡町本戸馬場636

※公式行事や農繁期のほか、家畜伝染病の警戒レベルの都合で、日程変更等をお願いする場合があります。また、知的財産保護や家畜防疫の観点から、見学範囲を制限しておりますのでご了承ください。ご訪問の際は、可能な限り複数人（団体）での視察をお願いします。

KUMAMOTO Pref.
農業研究センター

本紙に関するお問い合わせは、
企画調整部 企画情報課までご連絡ください。

〒861-1113 合志市栄3801

tel 096-248-6422 fax 096-248-7039

E-mail noukenkikaku28@pref.kumamoto.lg.jp



ホームページ



X(旧Twitter)